

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	衛生管理	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	38時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷知里	実務経験のある教員	○
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	美容師として必要な感染症の的確な知識、技能を習得する 代表的な感染症の病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学の歴史と感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図る 美容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1	公衆衛生の意義と課題	健康の意義を理解する	
2～3	公衆衛生の発展の歴史	欧米や我が国の公衆衛生・消毒法にかかる歴史と歴史上の人物を学ぶ	
4～5	保健所と理容業美容業	保健所の機能と事業について把握する	
6～9	母子保健	母子保健の意義や健康管理を学ぶ	
10～13	成人・高齢者保健	生活習慣病、高齢者の保健と福祉、介護保険制度について学ぶ	
14～15	精神保健	精神保健行政について学ぶ	
16	前期テスト		
17～19	環境衛生の概要	環境とは何かを理解する	
20～22	空気環境	空気や大気環境を学ぶ	
23～24	温度湿度気流と健康	健康で快適な生活について学ぶ	
25～26	衣服の衛生	衣服についての特性を理解する	
27～31	住居の衛生	住居の重要性について学ぶ	
32～33	上下水道と廃棄物	公衆衛生の基盤としての上水道廃棄物の処理システムを理解する	
34～35	衛生害虫とネズミ	健康を害する鼠族、昆虫等の対策を学ぶ・各種公害について学ぶ	
36～37	環境保全	具体的な衛生管理の概要について理解する	
38	後期テスト		
到達目標	美容師として必要な衛生における知識の理解を深める		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	保健	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	65時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷知里	実務経験のある教員	○
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『保健』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて、人体の構造や機能について頭頸部を中心に学び、理解を深める 保健衛生分野の職業である美容師に必要な解剖学や生理学について学ぶ		
授業概要	人体の構造や機能を全体的に学び理解を深める 必要に応じてプリントなどを使用し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～2	はじめに	授業の概要・人体の構造と機能	
3～4	人体各部の名称	人体各部の主な名称を(9つの部位)や、体の面と方向を学ぶ	
5～11	頭部・顔部・頸部	頭部・顔部・頸部の体表解剖学	
12～14	顔面	眼・耳・鼻・口とその周辺の特徴を学ぶ	
15～16	骨格器系	骨の種類と構造・骨の連結 骨格器系とそのはたらき(頭蓋・脊柱・胸郭)	
17～20	筋系	筋の種類とその特徴(筋の種類の表) 主な骨格筋とそのはたらき 表情筋と表情運動(眼・口・鼻や耳を中心とした筋の動き)	
21～27	神経系	神経系の成り立ち(神経大別の表)や中枢神経とそのはたらき 末梢神経のはたらき(自律神経系支配の効果の表)や仕組み	
28	前期テスト		
29～31	感覚器系	視覚・聴覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚	
32～51	血液・循環器系	血液のあらまし・各血球成分の役割 血液循環のあらまし(心臓を中心とした循環を理解)	
52～57	呼吸器系	呼吸器系のあらまし・肺の仕組みとガス交換	
58～64	消化器系	消化器系のあらまし・消化管の仕組み 消化管の働き・消化と物質代謝	
65	後期テスト		
到達目標	美容師として必要な人体の構造や生理解剖学的な知識を系統的に理解を深める		
評価方法	1. 定期テスト 90% 2. 出席状況 5% 3. 学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	化粧品化学	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	34時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	森澤佐枝・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般・理容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『化粧品化学』 日本理容美容教育センター		
教育目標	美容師に必要な化粧品化学分野の理解を深め、美容技術を高め安全に行う国家資格取得のための実力を養う		
授業概要	テキストに沿って、化粧品概論、原料、基礎化粧品の順に講義し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
回	項目	内容	
1～9	化粧品総論	化粧品の社会的意義と品質特性を学ぶ 化粧品の定義や製造販売、品質、表示等の規制の理解を深める 化粧品の安全性と取り扱い上の注意事項を学ぶ 化粧品の安全性や表示成分、トラブル等を学ぶ	
10～14	化粧品の成り立ち	化粧品の対象となる人体各部の性状の知識を深める 水性顔料の種類と特性を学ぶ 油性顔料の種類と機能を学ぶ	
15～16	化粧品の成り立ち	界面活性剤の基本的な性質と種類と化粧品への応用を学ぶ	
17	前期テスト		
18～22	化粧品の成り立ち	高分子化合物の種類と特性、化粧品への応用を学ぶ	
23～33	化粧品の成り立ち	色材と化粧品の関係や種類特性を学ぶ 香料の種類と調合等を学ぶ その他の配合成分として品質保持成分や特殊成分を学ぶ ネイル、まつ毛エクステンション用材料について知識を深める	
34	後期テスト		
到達目標	美容師として必要な化粧品の原料や種類、使用方法や安全性などを理解する		
評価方法	1・定期テスト(小テスト等の提出物) 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	文化論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	34時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び現代までの変遷を学び理解する 礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ		
授業概要	「理容」「美容」とは何か 価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～16	総論 日本理容美容の歴史	理容業・美容業の発生の成り立ちを学ぶ 理容業・美容業（江戸時代・近代現代）を理解する 理容業、美容業の歴史の理解を深める 縄文・弥生・古墳時代、古代（飛鳥・奈良・平安）中世（平安末・鎌倉・室町・戦国）について学ぶ	
17	前期テスト		
18～33	ファッション文化史 日本	縄文・弥生・古墳時代 古代（飛鳥・奈良・平安時代） 中世（平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代） 近世（戦国時代・安土桃山時代） 近代（江戸時代）	
34	後期テスト		
到達目標	美容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	美容技術理論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	73時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	横山哲也・斉藤千里・森澤佐枝	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『美容技術理論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	美容技術の裏付けとなる理論を学ぶことで技術への整然とした道筋を理解し確固たる技術を身に着ける 技術への科学的根拠を理解し安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	美容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術を理論の理解を図る 美容に附随するエステティック・ネイル・メイク・着付け等の基礎的技術と理論の理解を図る		
時間外学習	実技実習においても美容師としての基礎的技術及び理論を合わせて理解を深める		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	序章	美容技術の心得、作業姿勢、美容技術に必要な人体各部の名称を学ぶ	
5～11	第1章 美容用具	美容技術における用具の種類と取り扱いを学ぶ	
11～17	第4章 ヘアカット	カット用具と扱い方・刃物・ブロッキング・カット技法（シザーズ・レザー）を学ぶ	
18～26	第5章 パーマネントウェービング	パーマの歴史と理論・パーマ剤の分類と注意事項・パーマ技術・縮毛矯正を学ぶ	
27～32	前期試験に向けての総復習		
33	テスト	前期試験	
34～44	第6章 ヘアセッティング	ヘアセッティングの要素・カールの各部の名称と分類と種類を理解する ウェービングの名称と分類・ローラーカール・アイロン・アップスタイルを学ぶ	
45～51	第3章 ヘアデザイン	造形要素がもたらす錯覚や印象を理解デザインに生かすことを理解する	
52～58	第2章 シャンプーイング	シャンプーの目的・成分・手順・トリートメント・コンディショナーの種類を学ぶ	
59～65	第7章 ヘアカラーリング	ヘアカラーの種類・タイプ別特徴・染毛のメカニズムを理解する 色の基本的知識・毛髪のレベルとアンダートーン・パッチテスト・注意事項・脱色を学ぶ	
66～72	後期試験に向けての総復習		
73	テスト	後期試験	
到達目標	美容師として必要な技術について理論を通じて学び応用力を身に付ける		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	美容実習	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	522時間
授業単位数	15	必修・選択区分	必修
担当者	斉藤千里・横山哲也・森澤佐枝	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ウェーブ・ヘアカラー等）		
テキスト	『美容実習』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験にかかる技術を習得・美容室において必要な接客や技能技術を身に着ける 技術への科学的根拠を理解し安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	美容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術の習得を図る ワインディング、パーマ、ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、エステティック 技術等を身に付ける		
時間外学習	美容師としての基礎的技術の理解を深める		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～14	導入	美容技術における用具説明・扱い方・作業姿勢を理解する	
15～115	パーマウェービング	ブロッキング技術、方法と手順、ワインディング、ロットの選定を学ぶ ロットの角度と方向、コーミング技術を習得する タイムトライアル（20分） オールパーパスを反復練習し習得する	
116～222	大会練習	大会（B1）に向けての練習	
223～230	テスト	ワインディング練習及び前期試験（ワインディング）	
231～257	大会練習	学生大会各競技種目練習・タイムトライアル	
258～265	学生大会	学生大会参加及び見学	
266～327	導入	美容技術における用具説明・扱い方・作業姿勢を理解する	
328～514	ヘアセッティング	フィンガーウェーブ操作を実践し習得する 様々なピンカール4種類を学ぶ ピン方向と角度を学ぶ オールウェーブセッティング（25分）国家試験課題を習得する	
515～522	テスト	オールウェーブセッティング練習及び後期試験（オールウェーブ）	
到達目標	美容師国家試験に必要な技術と美容師として最低限必要な技術を身に付ける		
評価方法	1・技術確認テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下） の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	接遇マナー	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	34時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	西峯由規	実務経験のある教員	○
実務内容	専門学校教員・一般) 日本産業カウンセラー協会産業カウンセラー 一般) 日本産業カウンセラー協会キャリアコンサルタント		
テキスト	早稲田教育出版 サービス接遇検定3級公式テキスト・サービス接遇検定実問題集3級 株式会社ウィネット 実践ビジネスマナー		
教育目標	社会人としてのビジネスマナーを知ることから実践できるようになることを目指す サービス接遇検定3級合格を目指す		
授業概要	テキストを基に実際に行動できるような実践形式の講義 サービス接遇検定過去問題を解きながらサービス接遇検定3級合格に向けての講義		
時間外学習	日常生活の中で復習と確認を行う		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	基本動作	立つ姿勢・お辞儀の仕方・椅子の立ち座り・歩き方・表情・発声練習	
	言葉遣いの基本	話の仕方、話の聞き方・敬語の基本・間違えやすい敬語	
5～8	電話応対	電話応対の注意点・電話の受け方の基本	
	サービス接遇検定対策	過去問題①を解く・解説	
9～12	電話応対	電話の受け方の基本	
	サービス接遇検定対策	過去問題②を解く・解説	
13～16	サービス接遇検定対策	過去問題③④を解く・解説	
17～19	電話応対	伝言メモの作成	
	サービス接遇検定対策	過去問題⑤を解く・解説	
20～22	電話応対	こんな電話の時あなたは	
	サービス接遇検定対策	過去問題⑥を解く・解説	
23～26	サービス接遇検定対策	過去問題⑦⑧を解く・解説	
27～34	説明会など	就職に関する説明会や各種セミナー	
到達目標	サービス接遇検定3級の取得 就職活動や入社時に好印象を与える社会人のマナーの習得を目指す		
評価方法	1・修得状況テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	受講時はビジネススーツを着用する		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	総合教養	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	42時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	仲田大吾郎・大倉美智子	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する		
教育目標	「自分」と「将来」を見つけるために研究し理解する		
授業概要	<p>確かな基礎知識・技術に加え、考えるための道具＝方法を身に付ける</p> <p>個の可能性を無限に広げ、学ぶ喜びを因る</p> <p>業界や異業種の講師を迎えて講話等を行い、働く意義等の理解を因る</p>		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	はじめに	<p>セミナー</p> <p>コミュニケーション能力向上に向けた講話</p>	
4～11	講話	<p>セミナー</p> <p>今を有意義なものにする思考法</p> <p>働くことの意義など</p>	
12～14	講話・ワークショップ	<p>セミナー</p> <p>先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く</p>	
15～17	パーソナルカラー	<p>「色の三属性」「ガイダンス」「色相」</p> <p>「色相環」「慣用色名」</p>	
18～23	4シーズンタイプ 「トーン」	<p>「等色相面」「トーン表」</p>	
22～25	似合わせテクと「色素」	<p>理論「色素と似合う色」「自分の色素」「対比・光と色」</p>	
26～39	検定対策	<p>タブレットを使用した模擬試験</p>	
40～42	検定	<p>3級取得を目指す</p>	
到達目標	美容師として必要な基礎的な教養などを身につける		
評価方法	<p>1・作文提出 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%</p> <p>成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。</p>		
履修上の注意			

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	トータルアート (メイク・スタイリング)	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	42時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	遠藤悠子・浜田清香	実務経験のある教員	○
実務内容	サロン勤務22年 サロン勤務31年		
テキスト	『美容技術理論』『美容実習』 日本理容美容教育センター		
教育目標	メイクアップとスタイリング技術を習得・美容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的メイクアップ技術の習得、デザイン性など想像力を身につける		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	メイクアップ概論	肌と化粧品の種類と使用方法、メイクアップ技術の種類、技法を学ぶ	
5～14	メイクアップ実習	肌質に応じた化粧品の種類や塗布の仕方を実践して学ぶ 骨格や表情筋を意識しながら基本的なメイク技術を実践して学ぶ 質感によるイメージの違いを理解し立体的なメイクを実践して学ぶ イメージをデッサンに起こし習得した技術に基づいて反復練習	
15～21	テスト	相モデルによる試験・筆記試験	
22～24	スタイリング概論	スタイリングの種類や名称、必要な道具の使用方法等を学ぶ	
25～32	スタイリング基礎技術	基本的ブロー・アイロンなどの使用方法と仕込みの技術（三つ編み・編み込み・ロープ編み）（逆毛・すき毛）を実践し習得	
33～37	作品制作	ナチュラルスタイル・夜会巻きを習得し、自由作品に活かせるようにする	
38～42	テスト	日本髪スタイル・自由作品のデザイン画作成し制作	
到達目標	美容師として必要な基本的メイクアップ、アップスタイルからアレンジメントを習得		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	トータルビューティ (ネイル・エステ)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	79時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	斉藤千里・矢野愛 清藤千秋・遠藤悠子	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマ・ヘアカラー等）		
テキスト	『美容技術理論』『美容実習』 日本理容美容教育センター・JNECネイリスト技能検定		
教育目標	ネイル・エステティック技術を習得・美容室において必要な接客や技能技術を身に付け安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的なネイル技術を実習にて習得・エステティックの基本的な手順を実践にて習得		
時間外学習	美容理論		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	道具配付・理論	基礎理論・道具と手順を理解し、衛生処理や道具の取り扱いなどを実践で修得する	
8～49	ケア全般	手指の扱い方、ケアの工程を理解し技術を習得する	
	カラーリング	赤色に映えるアートやバランスを理解し技術を習得する	
	アート	実技試験に基づいた実践作業を反復練習することで検定に備える	
50～63	エステティック	エステティック心得・作業姿勢・備品説明・ベッド準備・ワゴンセットの習得をする	
64～69	フェイシャル及びデコルテ	フェイシャルエステティックの目的・効果について学ぶ	
		基本技法・美容機器の取り扱いや効果を理解する	
		カウンセリングの仕方・取り扱いを理解する	
70～79	美肌検定	美肌を引き出すための知識を学び検定取得を目指す	
到達目標	ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術と基本的なフェイシャルエステの技術を習得		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	サロンワーク (カット&ブロー)	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	78時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	高野敏彰・横山哲也	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマメント・ヘアカラー等）		
テキスト	『美容技術理論』『美容実習』 日本理容美容教育センター		
教育目標	カット・ブローの基礎的な技術を習得し、美容室において必要な接客や技能技術を身に付けて安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的なカット技術、理論及びブローセットを実習・実践にて習得		
時間外学習	美容理論		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	カット概論	カット技術の種類、技法を学ぶ	
5～18	カット実践	シザーズ取り扱い・シザーズトレーニング・ブロッキングを学ぶ ベーシックカット（ワンレングス・グラデーション・レイヤー）	
19～21	テスト		
22～35	カットの実際	デザインヘアの基本カット技法を理解する 外来講師によるサロン技術の実際（レディースカットの一例）	
36～40	講師作品展示	講師による作品制作・撮影	
41～43	イメージ決め	作品撮りに向けて、テーマ・イメージ・モデル決め等	
44～46	作品制作	撮影に向けてのシミュレーション	
47～50	撮影	作品制作（ヘア・メイク・衣装）その後各グループ撮影	
50～54	発表	テーマの発表・投票・優秀作品発表	
55～64	カットの基礎知識	シザーズ取り扱い・シザーズトレーニング・ブロッキングを学ぶ	
65～73	カット実践 スタイリング	ベーシックカット（ワンレングス・グラデーション・レイヤー）・刈上げ アイロンワークからのスタイリング	
74～78	テスト	学習したことを参考に自由作品を制作し優秀作品発表	
到達目標	基本的なカット技術を習得するとともに流行なども取り入れるスタイリングの完成を磨く		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	カラーワーク (カラー・シャンプー)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	63時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	横山哲也・森澤佐枝	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般 (カット・パーマメント・ヘアカラー等)		
テキスト	『美容技術理論』『美容実習』 日本理容美容教育センター		
教育目標	カラー・シャンプーイングの基礎的な技術を習得し、美容室において必要な接客や技能技術を身に付けて安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的なシャンプーイング技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	シャンプー概論	クロス掛け、ブラッシング、シャンプーイング手順 (サイド) を理解する	
8～30	シャンプー技術	サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー一連の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドライ バックシャンプー等一連の操作手順を習得する	
	ヘアトリートメント	トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	
31～42	テスト		
43～46	カラー概論	カラーの目的、カラー剤の種類、カラー用具、塗布の手順について学ぶ	
47～58	酸化染毛剤	タイプ別の塗布 (新生毛、リタッチ) 技術、乳化、コーミング等の実習する	
		白髪染め (新生毛、リタッチ) 技術をウィッグを使い実践作業を行う ロング、ショートヘア技術・スライシング・ウィービングを学ぶ	
59～63	酸性染毛料	塗布順序、コームテクニック (ロング、ショート) を学ぶ	
到達目標	美容師に必要なヘアカラーの知識と技術を身に付ける		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀 (100～90) ・優 (89～80) ・良 (79～70) ・可 (69～60) ・不可 (59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	美・1
授業科目	ブライダル (着付・アイラッシュ)	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	63時間
授業単位数	2	必修・選択区分	選択専門
担当者	森澤佐枝・西森美雪・安田江美子	実務経験のある教員	○
実務内容	美容業務全般（カット・パーマメント・ヘアカラー等）		
テキスト	『美容技術理論』『美容実習』『ABEまつ毛エクステンション』 日本理容美容教育センター		
教育目標	着付とアイラッシュの基礎的な技術を習得し、美容室において必要な接客や技能技術を身に付け安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	着付の基本的な技術を実習にて習得する アイラッシュの基本的な手順を実践にて習得し、ABE検定資格取得を目指す		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～21	浴衣	ボディ及び相モデルで着付け 自分での着付け 総仕上げ ゆかたのヘア&メイク	
22～28	導入	マツエク技術における用具の説明、扱い方、作業姿勢を学ぶ	
29～32	テーピング	ウィッグを使用して前処理、テープ、ハサミの取り扱いを反復練習	
33～35	グルーオフ	リムーバーを使用しオフ技術を習得する	
37～49	装着	J・Cカールを使用し、まつ毛への装着練習 グルーの取り扱いを理解し、様々な形状を学ぶ タイムトライアルによる技術の修得	
50～56	テスト	ABE検定に向けて技術の向上を目指す	
57～63	検定	ABE検定（美容師資格合格後 認定証配布）	
到達目標	基本的な着付の技術と、ABE検定資格取得に向けた基礎的なアイラッシュ技術を習得		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		